

エコパルなごや

夏号
Vol.99

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

み っ け て 知 ろ う ! 身 近 な 生 き も の た ち

春の季節、わたしたちの身の回りをよく見てみると、生きものたちが元気にいっぱい動き始めています。草花が芽を出し、花もいっぱい咲いています。花の周りには、たくさんの虫たちがいます。夏の季節は、春に比べて生きもの数や種類が増え、活動が盛んになります。みなさんの周りには、どんな生きものがいて、どんな暮らしをしているのかを観察してみましょう。

新プログラムのご案内

7月からエコパルなごやのバーチャルスタジオで小学校低学年向けの新プログラム「見つけて知ろう!身近な生きものたち」の上映がはじまるよ!



- 4 質の高い教育をみんなに
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさを守ろう

かんさつ と き ちゆうい 観察の時に注意すること

- ・毒を持つ生きものや、とげのある植物などに十分注意をしましょう。(例: スズメバチ、チャドクガの幼虫、イラクサ、ウルシなど)
- ・虫めがねを使って観察する時は、虫めがねで太陽を絶対見てはいけません。
- ・生きものをさわった場合は、必ず手を洗いましょう。

いろいろな話題をお届けします。

とくしゅう
特集

み っ け て 知 ろ う ! 身 近 な 生 き も の た ち

エコパル
NEWS

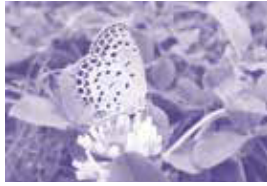
とくべつ きかてんじ
特別ワークショップ、マンスリー企画展示
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. 自然の観察

チョウ



ナミアゲハ



ヤマトシジミ

ハチ



クマバチ



ミツバチ

※高崎保郎さん撮影

周りを見渡すと花の近くには、チョウやハチがいます。よく見ると、いろいろなチョウがいて、羽の色や模様、体の大きさが違います。ハチも、体の色や形、大きさに違いがあります。生きものを見つけたら、色や形、大きさなどに気をつけながら、観察することで、生きものには、たくさんの種類があることがわかります。葉っぱや地面など、さらに細かく見てみましょう。葉っぱの上にはアオムシがいます。アオムシはチョウの子どもです。虫の子どものことを「幼虫」と言います。地面を見るとたくさんのアリや、さわると丸くなるダンゴムシがいます。草むらには、カマキリやイナゴがいます。木が茂っているようなところでは、クモが巣を作っています。水辺や水の中ではトンボの幼虫のヤゴがいます。

みなさんの身近な場所で、興味深く探してみると、いろいろな虫を見つけることができます。

2. 昆虫の見分け方

普段、虫と呼んでいる生きものには、昆虫とそうでない虫がいます。では、その見分け方を学びましょう。アリやチョウ、ハチの体をよく見ると、頭、胸、腹の3つの部分に分かれています。頭の部分には、目、口、触覚、胸の部分には6本の足がついています。またチョウやハチのように羽を持っている仲間もたくさんいます。このように体が、「頭」、「胸」、「腹」の3つに分かれていて、胸に、6本の足があるのが昆虫の特徴です。

昆虫とは体のつくりが違うクモは、頭と胸が一緒になっていて、足は8本あります。ダンゴムシの体は、頭、胸、腹に分かれているけど、体全体に14本の足があります。クモやダンゴムシは昆虫とは呼びません。

〈アリ、クモ、ダンゴムシの体の違いを観察してみよう〉



アリ

足:6本



クモ

足:8本



ダンゴムシ

足:14本



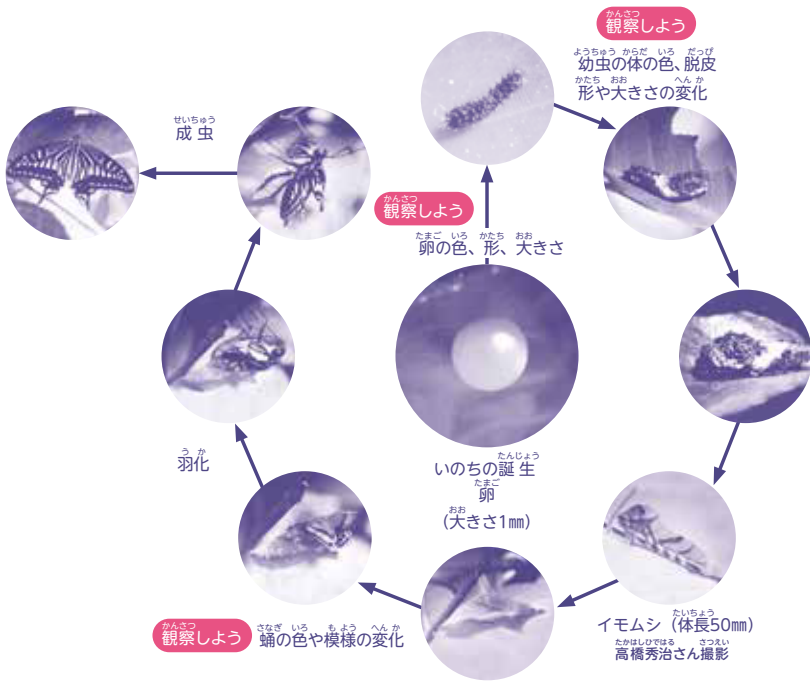
仰向けのダンゴムシ

3. 花に集まる虫たち

花の周りには、モンシロチョウやアゲハ（ナミアゲハ）、ミツバチなどです。その虫たちは、花の蜜を食べ物にしています。またミツバチは、幼虫の食べ物の花粉を集めています。では、チョウの幼虫は何を食べているのでしょうか。これからチョウの中でよく見られるアゲハを観察してみます。アゲハはミカンなどの木の葉に卵を産み付けます。卵はとても小さくて、大きさは、およそ1ミリしかありません。卵から出てきた幼虫は、自分が入っていた卵のからを食べ、それから葉っぱを食べます。幼虫のときに4回も皮を脱いで、そのたびに姿を変えます。（脱皮）4回皮を脱いだあとのアゲハの幼虫は、トゲや毛が目立たなくなり、イモムシとも呼ばれています。この時の体の大きさは、およそ5センチ。とても食欲旺盛で葉っぱをたくさん食べます。幼虫はやがて蛹になり動かなくなります。蛹の段階では何も食べません。やがて蛹の中からアゲハが出てきます。（羽化）

蛹から出てすぐは、羽が伸びきっていないので、まだ飛ぶことはできなくて、羽が伸びるまでじっとしています。しばらくすると一人前の蝶になって飛び立ちます。幼虫に対して、大人になった虫を「成虫」と言います。このように、チョウは成虫になるまでに、何度も姿を変えて成長をします。

たまご ようちゅう さなぎ うか せいちゅう そだ しゅんじょ かん さつ
 〈アゲハの卵→幼虫→蛹→羽化→成虫まで、育つ順序を観察しよう〉



4. 木に集まる虫たち

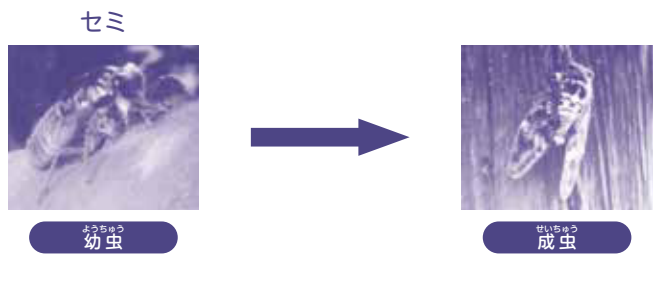
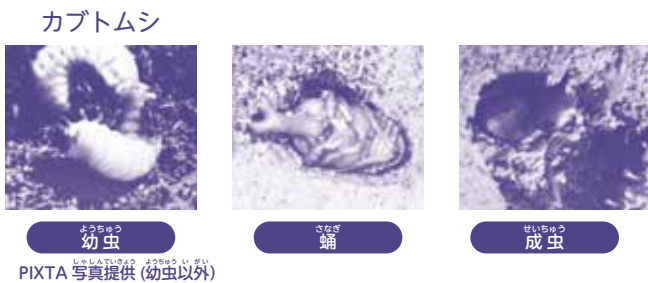
林の木で見つけられるのはセミ。夏になると、大きな声で鳴いているアブラゼミやクマゼミを見かけます。名古屋市内では、あまり見ることができなくなったけど、木の幹や枝には、カブトムシ、クワガタムシがいることがあります。木に集まる虫たちは、樹液を求めてやってきます。それらの幼虫は、どこにいるのでしょうか。カブトムシは幼虫のあいだ、落ち葉がたくさん積もった土の中で育ち、やがて蛹になって成虫になります。セミは、木に卵を産み付け、卵から生まれたばかりの幼虫は土の中にもぐりこみ、長い間土の中で過ごします。木の根から汁を吸って大きくなった幼虫は、やがて地上に出て成虫になります。カブトムシやセミなどのような虫にとって、木はなくてはならないものです。

5. 昆虫の育ち方の違い

カブトムシやアゲハチョウは蛹になるけど、セミは蛹になりません。カブトムシやチョウのように、幼虫から蛹になって成虫になることを「完全変態」と言います。それに対して、セミのように蛹にならないで、成虫になることを「不完全変態」と言います。このように昆虫の育ち方には、一定の順序があります。

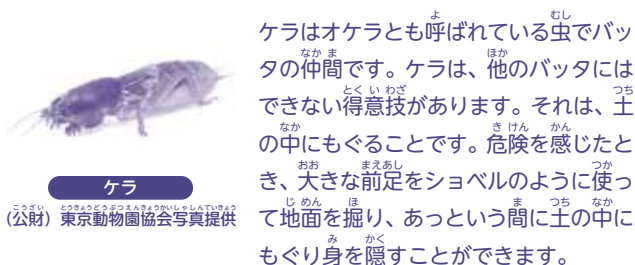
完全変態・・・カブトムシ、チョウ、ハチ

不完全変態・・・セミ、バッタ、トンボ、カマキリ



6. 草むらで暮らす虫たち

草むらにはトンボやバッタ、カマキリ、コオロギ、ケラなどがいます。トンボは草むらや水辺の上を飛んだり、草の上で羽を休めたりしています。バッタの中には、体が草の色とそっくりなものもいます。敵から身を守るために、周りとは区別がつかないよう、上手に草むらに隠れてくらす虫もいます。草の下の地面には、コオロギ、最近少なくなったけどケラという虫もいます。バッタは草を食べ、カマキリやトンボは、虫を捕まえて食べています。コオロギは、草や小さな虫を食べながら、他の生きものに狙われないように草むらに隠れています。草むらにいる虫たちは、食べ物を探したり、自分の身を隠したりして、うまくその場所を利用してはいます。花に集まる虫たち、木に集まる虫たち、草むらで暮らす虫たちには、食べ物のある場所、隠れる場所、それぞれの場所がとても大切です。



名古屋市内で、見られなくなってきた生きものはたくさんいます。ケラ、カブトムシ、トンボ、ホタルなどです。ホタルの仲間、ヒメボタルという種類のホタルは、名古屋城の辺りや相生山緑地でみられるだけになりました。それは、ヒメボタルが生きていける場所を人が守っているからなのです。人が守っていかなと、ホタルがいなくなってしまふなんて、ちょっと悲しいですね。

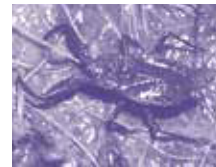
7. 自然にふれあい、生きもののことをよく知ろう

人が、緑がたくさんあった山や平地を切り開いて、道路や工場、住宅を作りました。ほかにも、海を埋め立てて港を大きくするなど、さまざまな施設を作りました。このように人が行ってきたことは、もともとその場所で暮らしていた生きもののすみかを奪ってしまうことになってしまいました。人だって生きものののに、他の生きもののすみかを奪ってきたなんて、とても残念なことです。

みなさんは、いつまでも多くの生きものたちと仲良く暮らすには、どうすればいいと思いますか？まずは、身近な自然と触れ合って、そこで暮らす生きものたちのことをもっとよく知ることです。例えば、名古屋市には、ヒメタイコウチという昆虫やマメナシという植物など、とても珍しい生きものも生きています。身近な生きものたちに興味を持って、もっと詳しく知ることで、そのいのちの大切さにも気づくことができるようになります。



マメナシの実、花



ヒメタイコウチ

高崎保郎さん撮影

8. 生きものたちのつながりといのちの大切さに気づきましょう

学校の校庭、家の近くの遊びなれた公園や神社、大きな公園、わたしたちの身の回りには、たくさんの生きものたちが暮らしています。生きものたちは、自分たちの暮らしやすい場所や、食べるものがある場所を見つけて、一生懸命に生きています。そんな生きものたちに興味を持って、その不思議をもっともっとたくさん知ってほしいです。

アクション1

自然に感謝する

地球上の生きもの暮らしは、すみかや食べ物もたらす自然の恵みに支えられています。

アクション2

自然にふれあう

自然を、見て、感じ、聞いて、ふれることで、わたしたちも自然の一員であることに気づきましょう。

アクション3

自然に親しむ

自然のすばらしさや不思議さに気づくことで、自然への興味や関心が高まり、いつの間にか「自然に親しむ楽しさ」を感じる事が出来、自発的な環境配慮行動につながります。

地球上の生きものはすべてつながっていて、人だけでは生きていくことができないから、ときには、生きものが生きていくことができるように、人が努力しなければならないときもあります。自然に感謝し、自然とふれあい、親しんで、豊かな自然や生きものへの恵みを、未来につないでいけるようにしましょう。



＜紹介します！エコパルなごやのバーチャルプログラムの仲間たち＞

テーマと放映時間	体験のめやす	内容
見つけて知ろう！ 身近ないきものたち 40分	小学校低学年	私たちの身の回りには、たくさんの生きものがいます。生きものの中でも「虫」たちの生きる様子をみなさんに紹介します。かつて名古屋市にもカブトムシやトンボをはじめ、多くの種類の生きものがいましたが、その姿が見られなくなってしまった理由についても考えてみます。小学校3年生の理科の学習に関連したプログラムです。【今回この誌面で、詳しく紹介をしました。】

他にも、5つのプログラムがあります。

【幼児から小学校低学年向け】①「ちきゅうとなかよし」

【小学校中学年から大人向け】②「生きものつながりとわたしたち」、③「ごみと資源とさんあ〜る」

【小学校高学年から大人向け】④「どうする地球温暖化」、⑤「未来に伝えようなごやの公害」

さあ、エコパルなごやで“進んで学ぼう、楽しく学ぼう、体験して学ぼう”

「せん定枝を使ったハチづくり」

日時 7月31日(土) 10:30～11:10、13:00～13:40
対象 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
定員 各15名(先着順)※7月11日(日)9:30受付開始
費用 500円
内容 せん定枝を使った工作教室。手のひらサイズのハチを作ります。
講師 もくもく楽舎 たけちゃん工房



「せん定枝を使ったダックスフントづくり」

日時 8月22日(日) 10:30～11:20、13:00～13:50
対象 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
定員 各15名(先着順)※8月11日(水)9:30受付開始
費用 800円
内容 せん定枝を使った工作教室。手のひらサイズのダックスフントを作ります。
講師 もくもく楽舎 たけちゃん工房



マンスリー企画展示



7月
テーマ JAL航空機から
見た地球の変化

出展者

日本航空株式会社

内容

コックピットから見た風景をパネルにして展示します。パネルを通して「自然の力強さ・美しさ」と「変わっていく地球」をお伝えします。

8月
テーマ 3R+もうひとつのR
ごみ削減をクイズで学ぶ

出展者

花王カスタマーマーケティング株式会社

内容

4つのecoクイズに答えて頂きながら、「ごみを削減する事の大切さ」を学び、自分事として実践に繋げてもらう為の展示を行います。

9月
テーマ MSC「海のエコラベル」
に関する展示

出展者

MSC(海洋管理協議会) ジャパン

内容

水産資源と環境に配慮した、持続可能な漁業で獲られた水産物にのみ付けられるMSC「海のエコラベル」について展示します。このラベルを選ぶことが、海の魚や環境を守ることに繋がります。

エコパルなごやのメールマガジン「エコパル通信」のお知らせ

エコパルなごやのイベントや展示情報、なごや環境大学の講座情報など最新情報をタイムリーにお知らせします。エコパルなごやウェブサイトのトップページ「エコパル通信」の登録フォームにメールアドレスを入力すると登録できます。

エコパルなごや

登録



夏休みの思い出づくりや宿題にもお役立ち！ 共育講座2021前期 開講中

現在配布中のガイドブックやウェブサイトでは、自然体験、工作、ワークショップなど、さまざまなスタイルの環境講座を紹介しています。夏休み期間の親子向け講座もたくさん。ぜひチェックしてご参加ください！

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講座毎に対策をとって実施しています。

「なごや環境大学」実行委員会事務局（エコパルなごや内）

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
〈TEL&FAX〉052-223-1223 〈E-mail〉 jimu@n-kd.jp 〈HP〉 https://www.n-kd.jp

ガイドブック配布場所

- ▶名古屋市内の各区役所
- ▶図書館
- ▶生涯学習センター
- ▶スポーツセンター等



Webサイトはこちら



藤前干潟ふれあい事業のご案内



(1) 「干潟体験」

日時 ①7月22日（木・祝） 9時30分～12時
②8月 9日（月・振） 12時～14時30分
対象 小学4年生～大人（小学生は保護者同伴）
定員 各20名（応募者多数の場合は抽選）

締切 ①7月10日（土） ②7月30日（金）
内容 干潟に入って生きものとふれあおう！
会場 藤前活動センター（港区藤前2-202）、三重交通バス（サンビーチ日光川行き）「南陽町藤前」下車徒歩15分。市バス（東海12 港区役所-サンビーチ日光川）「藤前五丁目」下車徒歩20分。駐車場有。

(2) 「ひがたにくるトリ、どんなトリ？」

日時 8月5日（木） 10時～12時
対象 小学1～3年生（保護者同伴）
定員 20名（応募者多数の場合は抽選）
締切 7月23日（金・祝）

内容 楽しいトリのお話と野鳥観察をした後に、カモのミニ模型の色ぬりをしよう！
会場 名古屋市野鳥観察館・稲永ビジターセンター（港区野跡4-11-2）、あおなみ線「野跡」駅または市バス「野跡駅」バス停下車徒歩15分。駐車場有。

(3) 「干潟を音であそぼ！」

日時 8月13日（金） 10時～12時
対象 小学生（保護者同伴）
定員 20名（応募者多数の場合は抽選）
締切 8月6日（金）

講師 パーカッショニスト本多“taco-bow”正典氏
内容 藤前干潟の音を聞いて絵を描いたり、みんなで演奏しよう！
会場 稲永ビジターセンター（港区野跡4-11-2）、あおなみ線「野跡」駅または市バス「野跡駅」バス停下車徒歩15分。駐車場有。

申込方法 メール、電話、FAXにて各々の申込先へ下記①から④の事項をお伝えください。
必要事項 ①催し名（干潟体験の場合、ご希望の日付も記入） ②参加者全員の氏名（小学生の場合学年も記入）
③電話番号（日中連絡のとれる番号） ④住所
申込先 (1) (2) 藤前干潟ふれあい事業実行委員会（エコパルなごや内）
〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
TEL 052-223-1067 FAX 052-223-4199 Eメール a2662@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp
(3) 環境省名古屋自然保護官事務所
〒455-0845 名古屋市港区野跡4-11-2 稲永ビジターセンター内
TEL 052-389-2877 FAX 052-389-2878 Eメール WB-NAGOYA@env.go.jp

名古屋市環境学習センター エコパルなごや

申込・問合せ先

TEL : 052-223-1066 FAX : 052-223-4199
http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/
E-mail : a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「6番出口」徒歩7分
■開館時間／午前9時30分～午後5時 ■入館料／無料
■休館日／毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日
年末年始 12月29日～1月3日

エコパルなごや



（消防署があるビル13階）

